令和6年度第3回在宅医療介護連携会議　全体会まとめ

全体会	議題 1.流山市の高齢者を取り巻く状況について 令和5年度第5回在宅医療介護連携会議において、高齢者を取り巻く社会問題が複雑化・多様化しており現場での関わりに困難が伴うとの現状報告があった。関係各課に協力を仰ぎ、流山市の高齢者を取り巻く環境について実態把握をおこなった。 「流山市生きづらさ包括支援事業」について（政策福祉課） 困りごとを抱えた市民への支援として、2024年4月から「生きづらさ包括支援事業」と「重層的支援体制事業」が始まった。従来の分野別支援（高齢者、障害者、生活困窮）では対応できない複雑化した問題（引きこもり、8050問題、セルフネグレクト）に対処することを目的としている。「よりそいサポートセンター」は、市民のニーズを地域で探り、既存の相談機関と連携して支援を行う。支援会議を通して支援者間での情報共有を通じて、市民に負担の少ない支援を実施していく。参加支援事業では、引きこもりの方に社会参加の機会を提供し、働くことだけでなく多様な参加を提供する。課題解決には時間がかかることがあり、支援対象者とのつながりを維持する「併走型支援」が重要である。アウトリーチを通じた継続的支援が「よりそいサポートセンター」に委託され令和6年10月1日から業務が開始される。 「よりそいサポートセンター」機能について（社会福祉協議会） 重層的支援体制整備の一環として以下の2つの事業を担う。 ・アウトリーチ等を通じた継続的支援事業 支援が届いていなかった人々に対して、信頼関係を築きながら伴走し、状況を把握して支援を行う。 ・参加支援事業 社会とのつながりが断絶した方の話をじっくりと聞き、ニーズに合った社会支援を提供し、関係性の回復を支援する。 「よりそいサポートセンター」は流山駅近くに位置し、1階をオープンスペース、2階に相談室、事務室がある。今後、法的機関、地域とのつながりを深め、困りごとを抱える方々への情報を集め、アウトリーチを通じて支援を行う。支援には本人の同意が必要であるが、同意を得る前でも関係機関からの情報共有が可能。参加支援事業では、ボランティア活動から社会参加を促し、段階的に関係を築いていく。「よりそいサポートセンター」の存在を広く認知してもらい、地域との関係性を強化し、困っている方々をサポートしていくことを目指している。 委員質問 Q：「よりそいサポートセンター」のマンパワーが5人とのことであるが、活動できるのか A：いきなり何件も関わることはないと考える。引きこもりに関するなら、「なぜ引きこもってしまったのか」について丁寧にアプローチしていく。信頼関係を築き、そこから支援に入るので状況が一挙に動くということはないと考える。そのため、メンバーは、皆様との関係構築のため外に出ていくこともできる。 議題 2.令和 6 年度流山市における在宅医療介護連携推進事業評価 2 急変時の場面と、入退院支援の場面の事業評価 1.急変時の対応についての事業評価 急変時の対応についてはあらゆる場面に関わってくる。医療・介護・消防（救急）の連携が

重要であり、高齢者が在宅で療養する際に本人の意思を尊重した適切な対応を目指している。

急変の場面は以下のように分けられる

・予想される疾患での急変（ガン末期など）：望まない搬送を避け、住み慣れた場所で最期を迎える

・新たな疾患での急変（骨折など）：関係者間での情報共有を強化し、スムーズに医療につなげる

・未決定の場面：本人が意思決定を行い家族と共有できる状況を作る

・救急要請の判断基準：判断が難しい場合は救急要請を行うべき

【課題】

・病院⇔消防（救急）との連携：円滑とは言えない。双方向で共通理解を図るため、流山版千葉県地域生活連携シートを作成し令和6年6月から運用中

・ACP の普及啓発：平常時から今後起こりうる状況を事前に想定し対応方法を共有する必要がある。市民が救急搬送の意味を理解する必要がある

【取組】

・救急カードが広く普及しているため、年に 1 度救急カード内の情報更新することを周知

・消防との情報交換会の開催、人生会議（ACP）アドバンス　ケア　プランニングを踏まえた視点での情報交換会を開催し、さらなる連携体制の強化を図る

・市民が救急搬送の意味を理解するため、在宅医療者が日々の関り、声掛けを通し急変時、救急要請時には、在宅医療関係者にまず連絡を入れるように繰り返し伝える

【評価】

急変時に対応できる提供体制は整ってきているが、病院・在宅・消防（救急）の情報共有不十分さがあり円滑な連携には至っていないと考える。望まぬ搬送を減らすための取り組みには課題が多いため急変時の体制構築は発展途上にある。

委員意見

・「人生会議（ACP）の普及啓発について進んでいない」とあるが、千葉県医師会で出している「リビングウィルについて」を活用し希望する医療行為について記載している利用者が多いと感じている。

・介護職が急変時に居合わせることが多い。介護職が適切に対応できるようにする必要がある。具体的に急変と考えるものは何か。急変の判断基準をもっと細分化してもいいのではないか。在宅医療連合学会の急変時の対応研修プログラムが参考になるのではないか。場面を具体的に見ていく研修を受けていくと慌てずに対応することができるのではないか。

・急変といってもさまざまである。医療介護にかかわらず、知識、スキルの底上げの共有が必要ではないか

2.切れ目のない円滑な入退院支援の体制を構築する

入退院支援に関する事業評価では、医療機関と介護事業所等が協働・情報共有を行うことで、一体的でスムーズな医療介護の両方を必要とする状態の高齢者が希望する場所で望む日常が過ごせるような生活できるような体制を目指している

・流山版千葉県地域生活連携シート満足度

千葉県地域生活連携シートについてのアンケート結果では、7 割程度がシートを活用していると回答している一方、在宅医療介護連携会議や、医療と介護をつむぐ会において在宅・病院・救急（消防）の連携の場面でタイムリーな情報提供がなされていないとの声が上がっている。このため既存の「千葉県地域生活連携シート」に必要な記載項目の洗い出し、優先順位を考慮したシートの見直しを行った。令和 6 年 6 月より「流山版千葉県地域地域生活連

	携シート」の試験活用を開始した。 【課題】入退院支援の連携強化をする必要がある ・流山版千葉県地域生活連携シートの周知と活用状況の把握 共通理解を図るため、流山版千葉県地域生活連携シートを作成し令和6年6月から運用中。令和6年11月頃に、活用状況をアンケートにて確認予定 ・医療・介護の職域の理解不足 医療と介護をつむぐ会の研修を活用し、各専門職種の意見交換により職域理解を図る 加算に関して 診療報酬・介護報酬における加算を算定している市内医療機関においては、一定の連携が図れていると考える。診療報酬、介護報酬加算については、認識不足や、手続きの煩雑さから加算に至っていない場合もある。加算を算定していても、患者の意向、希望に沿った入退院支援はできているのか、スムーズな情報連携が取れているのかについては主観的な判断であり評価が難しい。 【課題】市民に在宅療養の理解を促し、関心を深めるための普及啓発の必要がある 切れ目ない円滑な入退院支援を評価するための指標の検討が必要 【評価】市民に対する在宅療養の理解促進と客観的な評価指標が必要とされており、全体として達成度は△と評価される 委員意見 ・病院では、入院患者すべてに対し、退院前カンファレンスを行っているわけではない。急性期の病棟であると治療が終わり医師の退院許可が下り次第、退院に向けて話が進んでいく。ケアマネサイドから退院前にカンファレンスをした方がいいということであれば、是非、病院側に連絡が欲しい。生活連携シートからはくみ取ることができないことがたくさんある。 ・ケアマネであるが、連携シートを病院側に提出すると、病院から連絡をいただけている ・情報共有をかかわる者すべてに対してというのは難しいのかもしれない。患者、家族にとってどの職種との連携が重要かとの優先順位みたいなものがあるといいのかもしれない

令和6年度第3回会議　各部会の討議まとめ

多職種連携・体制構築部会	病診施連携班	・在宅看取り推進のための症例検討会 北部地域：10月 9 日（水）17時から18時半　北部公民館講義室 中部地域：9月11日（水）15時30分から17時　駒木台福祉会館舞台付大広間 ・施設看取りの推進について 高齢者住まい看取りケア研修（VR 体験）：7 月 22 日（月）10時から12時 アンケート結果をもとに課題について検討 ・入退院時情報共有（提供）の状況調査について
研修・啓発部会	専門職研修班	・第 3 回介護と医療をつむぐ会について 日時：令和6年 12 月13 日（金）　18時45分から20 時 45 分 開催場所：初石公民館　2 階ホール予定 テーマ：「生活困窮、独居高齢者、認知など」 ・第 4 回介護と医療をつむぐ会について 日時：令和 7 年 2 月 17 日（月）予定 テーマ：消防（救急）との連携、望まぬ搬送を防ぐための人生会議の内容を絡めた内容を検討する ・市ホームページ「在宅療養について」内容の拡充について 市民に分かりやすい在宅療養情報を提供するため市民啓発班と合同で内容の検討する
	市民啓発班	・令和6年度市民公開講座開催計画概要 候補日時：令和6年10月12日（土）14時から16時 開催場所：初石公民館　大ホール 開催方法：参集型、オンデマンド配信 ・市ホームページ「在宅療養について」内容の拡充について 流山市在宅医療介護に関するホームページ掲載（案）を説明。専門職研修班と合同で内容の検討 ・おうち療養紙　第 11 号について 市民公開講座内容、アンケート内容抜粋、在宅看取りに関連した症例検討会紹介 在宅療養を支える関係者の紹介、相談先について予定